

# あし



レベル 初中級  
しよちゆうきゆう

【原作】新美南吉  
げんさく にいみなんきち

【簡約】大貝雅・松田遥花・浅野まほ  
かんやく おおがみやび まつただはるか あさの

【挿絵】松田遥花  
さしえ まつただはるか

二匹の馬が、昼にぐうるぐうると横になって、寝ていました。

すると、風が寒くて一匹の馬がくしゃみをしました。

起きると、足が一本動かなくて、

立つことができませんでした。

「おやおや。」

足を動かそうとしました。でも、動きません。

そこで寝ている友達のを起こしました。

「大変だ。足を誰かに盗まれてしまった。」



「足はあるよ。」

「この足は僕の足じゃない。別な人の足だ。」

「どうして?」

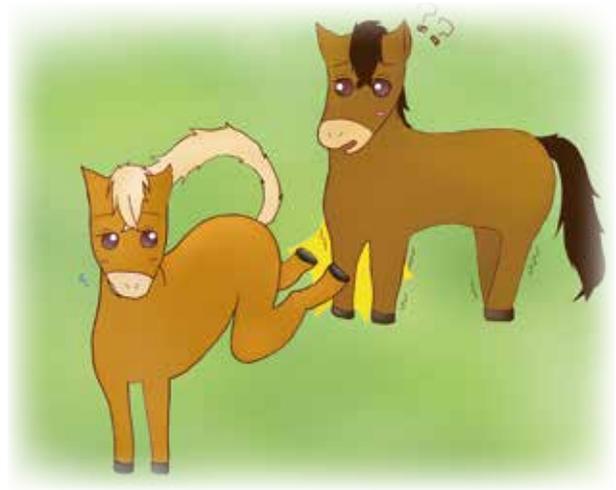
「いつものように動かせないからだよ。」

「ちょっと足を蹴ってくれ。」

「友達の馬は、動かない足を蹴りました。」

「やっぱり僕の足じゃない。僕の足なら痛いはずだから。よし、盗まれた足を探しにいこう。」

「馬は、足を探しにいきました。」



「あ、椅子がある。椅子が足を盗んだのかもしれない。

よし、蹴ってみよう。蹴って痛かったら僕の足だ。」

馬は、椅子の足を蹴りました。

椅子はなにも言いません。そして、壊れてしまいました。



馬は、テーブルの足を蹴りました。

テーブルはなにも言いません。そして、壊れてしまいました。

馬は、ベッドの足を蹴りました。

ベッドはなにも言いません。そして、壊れてしまいました。



探しても、探しても馬の足は見つかりません。

「あいつが盗んだのかもしれない。」

馬は、友達の馬が足を盗んだのだと思ったので、友達がいるところに帰りました。

そして、友達の馬の足を蹴りました。

友達は、

「痛いー！」

と言いました。

「それが僕の足だ！僕の足を盗んだのは君だ！」

ともだち うま うま あし け  
友達の馬も、馬の足を蹴りました。

いた  
「痛いー!!!」

うま あし け  
馬は、足を蹴られて、痛いと思いました。

うま あし ぬす  
馬の足は、盗まれたものではありません。

うご  
しびれていたなので、動かなかったのです。



みなさんも正座<sup>せいざ</sup>をしてみてください。足<sup>あし</sup>がしびれて、動<sup>うご</sup>かなくなりますよ。



やさしい日本語で読む日本文学  
『あし』『赤とんぼ』

2023年3月1日発行

発行 宮城学院女子大学 学芸学部 日本文学科

印刷 株式会社 フロット

許可なしに転載・複製することを禁じます。